

A H J I K A N R E P O R T

第58期 報告書

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日





株式会社 あじかん
代表取締役 社長執行役員 **足利 直純**

プロフィール

- 1998年 当社入社
- 2010年 当社商品企画部長
- 2012年 当社執行役員および西日本営業部長
- 2014年 当社取締役
- 2017年 当社営業本部副本部長
- 2018年 当社ヘルスフード事業部長
- 2019年 当社常務取締役
- 2021年 当社代表取締役社長
- 2021年 当社代表取締役 社長執行役員

※2021年6月29日付で、役員制度を変更したことに伴う異動

株主のみなさまへ

増収増益の決算をご報告申し上げます

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第58期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の連結会計年度が終了いたしましたので、営業の状況および決算などについてご報告申し上げます。

当連結会計年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞が継続した結果、個人消費は依然として回復しておらず、厳しい状況で推移いたしました。加えて、世界経済におきましては、ウクライナ情勢、新型コロナウイルスの感染再拡大、米国の金利政策によって、原油先物市場や金融資本市場が非常に不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

そのような状況の中、当社グループは『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の初年度をスタートさせ、第一に「利益構造改善への取り組み」、第二に「業務用食品事業の成長拡大」、第三に「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、第四に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、業務用食品等において、特にスーパーマーケットやコンビニエンスストア業態において、繁忙期である盆・年末・節分の売上が伸張したことや、ロックダウンの影響が軽減されたことに伴い海外輸出売上が大きく回復したことなどにより、45,315百万円(前連結会計年度比6.4%増加)となりました。

一方、利益面につきましては、当社主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇したほか、円安の影響により外貨建て輸入品の仕入原価が上昇したことなどの影響がございましたが、デリバティブの時価評価益や投資有価証券売却益などの計上により、最終的な親会社株主に帰属する当期純利益は635百万円(前連結会計年度比5.8%増加)となり、増収増益の決算をご報告させていただきます。

当社は、引き続き、食品メーカーとしての社会的責任を全うし、目標の確実な実現に向けて全社をあげて取り組む所存であります。「共に咲く喜びを実現する」という創業の精神を忘れず、これからも、お客さま、株主さま、そして従業員など、みなさまに喜んでいただける企業となれるよう努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年6月

代表取締役 社長執行役員 **足利 直純**

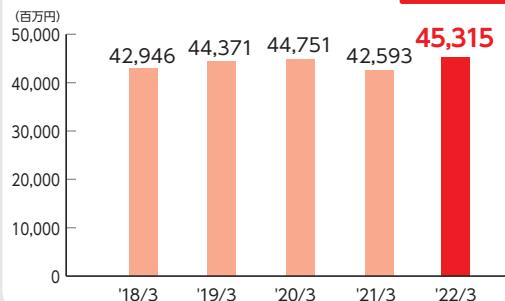
連結業績ハイライト

売上高 **45,315** 百万円 (前連結会計年度比6.4%増加)

業務用食品等では、前連結会計年度に大幅に減少していた仕出し・給食業態の需要も回復基調にあることに加え、特にスーパーマーケットやコンビニエンスストア業態において、繁忙期である盆・年末・節分の売上が伸張したことなどにより、国内の売上高は前連結会計年度の実績を上回る結果となりました。他方、海外輸出売上に付きましても、ロックダウンの影響が軽減されたことに伴い、大きく回復いたしました。

ヘルスフード事業では、通信販売において東京オリンピック・パラリンピック期間中のテレビCM抑制により、新規顧客の獲得が減少したことや、市販品販売では、新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要の拡大で前連結会計年度に大きく伸張した健康茶市場が一服したこともあり、売上高は前連結会計年度の実績を下回ることとなりました。

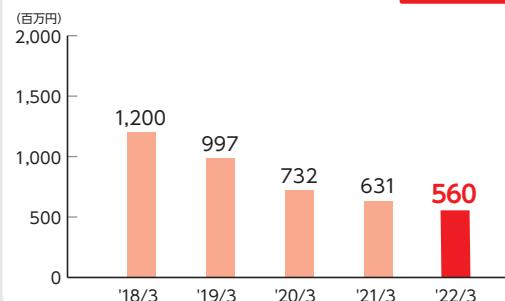
売上高の推移



営業利益 **560** 百万円 (前連結会計年度比11.3%減少)

売上高拡大に加え、徹底的に経費の抑制を図ったものの、当社主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇したほか、円安の影響により外貨建て輸入品などの仕入原価が上昇したことなどにより、営業利益は560百万円(前連結会計年度比11.3%減少)となりました。経常利益は、デリバティブの時価評価益や持分法による投資利益の計上などにより、921百万円(同10.2%増加)となりました。

営業利益の推移

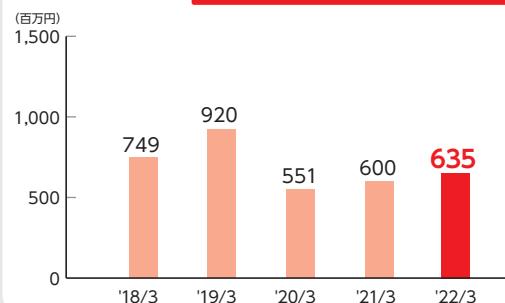


親会社株主に帰属する当期純利益

635 百万円 (前連結会計年度比5.8%増加)

投資有価証券売却益35百万円や投資有価証券評価損15百万円の計上などにより、税金等調整前当期純利益は954百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は635百万円(前連結会計年度比5.8%増加)となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益の推移



業務用食品事業 [玉子焼、野菜加工品、畜肉加工品、水産加工品など]

◎スーパーマーケット、コンビニエンスストア、寿司屋、テイクアウト弁当、外食チェーン、ベーカリー業態など

業務用の世界では「玉子焼や寿司用具材といえば、あじかん」と言われるほど、高い品質に裏付けされた信頼を核に、製品の品揃えを拡大してまいりました。これまでの中食事業で培った経験や技術をもとに、外食やベーカリー業態など、新たな業態への販路拡大にも取り組んでいます。

注目のアイテム①

KC韓国風キンパ巻芯



導入
MENU

2021年度はキンパ巻が大ヒット。そんな大ヒット巻寿司を支えたアイテムの一つが、あじかんのセット芯「KC韓国風キンパ巻芯」です。

本商品は、当社独自技術である「結着技術」を活用しており、解凍しても具材がバラバラにならない製品で、これまで具材を一つずつ置いていたキンパ巻の作業性を改善できると高評価でした。

作業性以外にも、彩りの良い具材を使用していることでの「見た目」や野菜の食感が残っていると「おいしさ」の面でも評価をいただきました。

注目のアイテム②

手作り風国産さんぴら牛蒡1kg 国産焙煎ごぼうパウダー 1kg 国産焙煎ごぼう茶(茶葉)600g



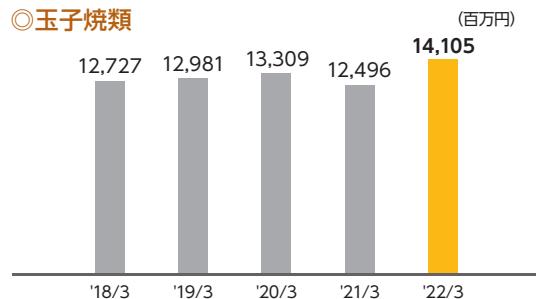
導入
MENU

当社が玉子に次ぐ第二の柱として力を入れている「ごぼう」で、ごぼう惣菜だけでなく、ごぼう茶も使用したおにぎりが発売されました。

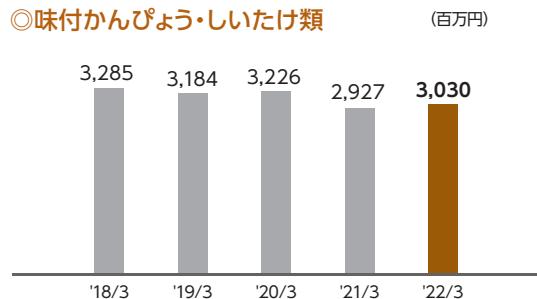
関西の一部エリアの限定商品ではありますが、いずれは他エリアへも水平展開できればと考えています。惣菜売り場からも「あじかん焙煎ごぼう茶」ブランドの拡大の一助になれるよう、全社一丸となった活動を推進してまいります。

業務用食品分類別の売上高

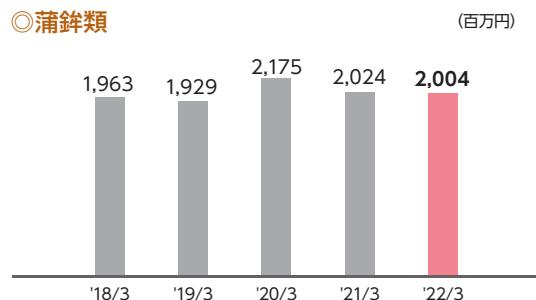
◎玉子焼類



◎味付かんぴょう・しいたけ類



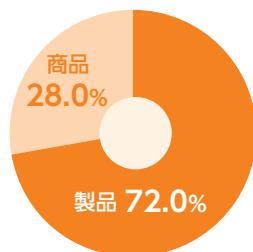
◎蒲鉾類



◎自社企画ブランド品



◎売上高構成比



新型コロナウイルス感染症の影響が継続する厳しい経営環境の中、スーパーマーケットを中心とした中食業態や、回転ずしチェーンを中心とした外食業態への可能な限りの提案・販売促進活動を展開してまいりました。前連結会計年度に大幅に減少していた仕出し、給食業態の需要も回復基調にあることに加え、特にスーパーマーケットやコンビニエンスストア業態において、繁忙期である盆・年末・節分の売上が伸びました。



※製品：自社工場製造品および国内・海外協力工場へ製造委託している自社企画ブランド品 / 商品：他社メーカー仕入品 (問屋機能)

ヘルスフード事業 [ごぼう茶関連製品]

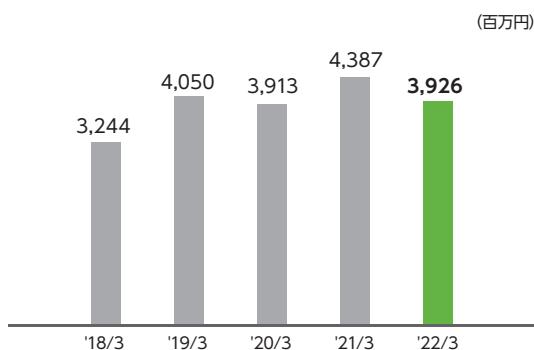
©通信販売、市販(ドラッグストア、スーパーマーケットなど)



おいしいだけでなく、健康にも繋がる食を目指して、ヘルスフードという新たなフィールドにも挑戦しています。2010年には、業務用食品という事業領域から一歩踏み出して、一般消費者向けの『あじかん焙煎ごぼう茶』を発売し、健康を気遣う多くの方々に支持される大ヒット商品となりました。

今後は、ごぼう以外の素材にも着目し、ヘルスフード分野において、新たな需要を創造してまいります。

ヘルスフード事業の売上高



ドラッグストアなどでの市販品向けに、新規開拓やインスタアプロモーションの強化を実施したことに加え、健康茶以外の新製品開発を進め、「栄養とろけるごぼうスープ」や、当社では初めてとなるサプリメント「ごぼう茶プリ イチョウ葉プラス」などを新発売しました。しかしながら、通信販売で、東京オリンピック・パラリンピック期間中のテレビCM抑制により、新規顧客の獲得が減少したことや、ドラッグストアなどでの市販品では、新型コロナウイルス感染症の影響で前連結会計年度に大きく伸張した健康茶市場が一服したこともあり、売上高は前連結会計年度の実績を下回る結果となりました。



新製品の発売!

ごぼう茶プリ イチョウ葉プラス

あじかん独自の「国産焙煎ごぼう茶」と「サプリメント」を組み合わせ、『ごぼう茶(ちゃ)プリ』と名付けた、新しいカテゴリーの健康食品です。あじかんの通信販売で一番人気のプレミアムなごぼう茶「国産焙煎ごぼう茶 プレミアムブレンド ごぼうのおかげ」と同じ、青森県産と茨城県産の上質なごぼうを使用。ティーバッグ1包分(2g)と同じ量の成分を、4粒だけで摂取できます。また、イチョウ葉エキスを配合し、加齢とともに低下する脳の認知機能を向上させる作用のある機能性表示食品です。



内容量	36.18g (301.5mg×120粒)/袋
価格	通常購入価格 3,702円/袋(税込) 定期購入価格 3,331円/袋(税込)
発売日	2022年2月1日
発売地域	全国(通信販売)

海外事業 [玉子焼、かに風味蒲鉾、野菜加工品など]

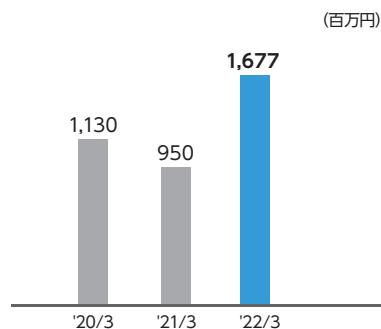
◎中国、北米、オセアニア、東南アジアなどの日系スーパーマーケット・日本食レストランなど



世界中に広がる日本食へのニーズにお応えするため、海外における営業活動、生産活動を実施し、海外市場の拡大を目指しています。

独自の技術で差別化された商品力を武器に、日本で培ったノウハウを現地の食文化と融合させ、多様な食文化に対して当社製品を販売してまいります。

海外事業の売上高



※2020年3月期より、海外事業の売上高の算出方法を見直しております

新型コロナウイルスに伴うロックダウンの影響が軽減されたことに加え、厚焼玉子を中心として、新規販売先の獲得に向けた販売促進活動を実施しました。その結果、アメリカ合衆国やシンガポールなどで、厚焼玉子の新規取引を開始するなど、販売が大きく伸び、10億円を超える売上となりました。なお、2021年7月6日付でアメリカ合衆国ロサンゼルスに販売拠点となる連結子会社AHJIKAN FOODS, INC.を設立しました。



アメリカ合衆国に当社100%出資子会社の設立

当社は、2030年3月期を着地点とする長期ビジョン『あじかんV30』で海外事業を成長事業の一つに掲げており、市場拡大に向けて各施策を展開しています。中でも北米での市場拡大は、中国国内市場の拡大と並び重点課題として位置付けておりますが、現地では地場の鶏卵加工業者や日系企業などの競合も多くあります。今後、北米で販路を拡大させていくためには、現地に軸足を置いた営業活動によるプロモーションの強化が重要になると考え、2021年7月6日付で、アメリカ合衆国ロサンゼルスに販売拠点となる100%出資の子会社AHJIKAN FOODS, INC.を設立いたしました。

チルド物流を根幹においた

あじかんネットワーク

国内の5つの自社工場と1つの協力工場で、徹底した品質管理のもと生産された製品は、全国へ張り巡らされた物流網を通じて、全国36営業所から直接、お客さまにお届けしています。



- 駐在所
- 営業所
- 出張所
- 工場



本社・広島工場
'78年稼働
主要生産品目／
玉子焼・味付品・ごぼう茶



静岡工場
'98年稼働
主要生産品目／
玉子焼・かに風味蒲鉾・おぼろ



仙台営業所
'17年移転開設



鳥栖工場
'82年稼働
主要生産品目／
玉子焼・かに風味蒲鉾・おぼろ

籠谷工場(協力工場)
'92年稼働
主要生産品目／玉子焼



守谷工場
'91年稼働
主要生産品目／玉子焼・味付品



つくば工場
'17年稼働
主要生産品目／玉子焼・
野菜加工品・ごぼう茶



沖縄



岡山営業所
'19年移転開設



名古屋営業所
'18年移転開設



千葉営業所
'16年開設

Outlook 今後の見通し

市場環境の見通し

今後の見通しにつきましては、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内景気のみならず世界経済につきましても不透明な状況が継続するものと思われます。

販売面の見通し

当社グループは、2030年3月期を着地点とする長期ビジョン“あじかんV30”を策定し、「需要創造型食品メーカーへの挑戦」「利益構造改革と経営品質の向上」の実現に向け、第12次中期経営計画(2021年4月～2024年3月)の2年目をスタートさせます。その基本戦略は、「利益構造改善への取り組み」、「業務用食品事業の成長拡大」、「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、「経営品質の向上」としております。なお、需要創造型食品メーカーとは、潜在ニーズを捉え自ら市場(需要)を企画し、差別化された製品とサービスにより顧客に価値を提供することを競争力の源泉とする食品メーカーであります。

2023年3月期につきまして、業務用食品では新たな営業体制のもと、開発部門との連携を強化し、需要創造型の営業・開発を推進してまいります。一方、焙煎ごぼう茶を主力とするヘルスフードでは、環境変化に適した新製品開発を進めるとともに、焙煎ごぼう茶のさらなる販路拡大に向け、新市場開拓を進める予定であります。

利益面につきましては、円安の進行や、原油高に伴う仕入コストの上昇、諸経費の増加が見込まれる中、自助努力可能な原価低減・経費・投資の執行マネジメントの一層の強化に加え、売価政策の推進などを進めてまいります。

業績の見通し

次期の売上高は47,000百万円(当連結会計年度比3.7%増加)の増収見込みであり、営業利益は600百万円(同7.1%増加)の増益を見込みますが、営業外損益を加えた経常利益は為替予約の時価評価損などを見込み、750百万円(同18.6%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益は500百万円(同21.3%減少)を見込んでおります。

あじかんのあゆみ

当社の歴史は、創業者である足利政春が、1962年に広島市で個人創業したことから始まります。以来、地歩を固めながら確実に成長してまいりました。

売上高
(百万円)

40,000



30,000



広島製玉時代の本社工場



静岡工場

20,000



創業当時の作業風景

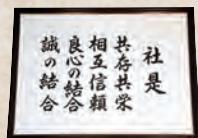


本社・広島工場 (1978年当時)



広島証券取引所へ株式上場

10,000



2000年 3月 東証2部上場 (広証廃止による移行上場)

1998年 4月 静岡工場開設

1996年 12月 大証2部上場

1990年 12月 広島証券取引所へ株式上場 (6日) / 資本金を1,102百万円に増資

1984年 8月 「厚焼玉子の製造方法」特許登録 (初の登録特許)

1978年 3月 商号を株式会社あじかんに変更
6月 本社・広島工場を広島市西区商工センター (現地) へ新築移転

1970年 1月 商号を株式会社広島製玉に変更

1965年 3月 資本金100万円にて株式会社三栄製玉設立 (19日)

1962年 10月 広島市南区西蟹屋にて、創業者 足利政春が三栄製玉として個人創業 (8日)



特許証明書

0

1962

1970

1980

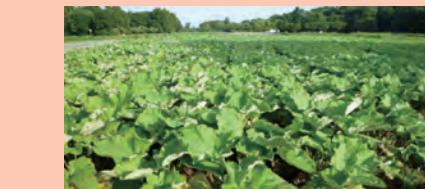
1990



愛康食品(青島)有限公司



山東安吉丸食品有限公司



あじかんアグリファーム



Pマーク認証の登録証



FSSC22000の登録証



売上高
(百万円)

40,000

30,000

20,000

10,000

0

2022年 2月 当社初のサプリメント
「ごぼう茶^{すり}プリーチョウ葉プラス」新発売
check **P5.TOPICS**

2021年 1月 創業者 足利政春名誉相談役が他界(86歳)(16日)
4月 代表取締役社長に足利直純(現 代表取締役 社長執行役員)が就任
あじかんグループ長期ビジョン2030(あじかんV30)スタート
7月 アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスに
AHJIKAN FOODS, INC.を設立
check **P6.TOPICS**

2020年 9月 国連WFPの「学校給食支援」の施策の一つである
「レッドカップキャンペーン」に参加開始

2019年 3月 「あじかん焙煎ごぼう茶プレミアムブレンドごぼうのおかげ」が
機能性表示食品としての届出が受理
4月 株式会社井口産交を完全子会社化
広島市八丁堀へカスタマーセンターを開設

2018年 1月 プライバシーマーク認証取得

2017年 6月 監査等委員会設置会社へ移行
11月 つくば工場開設

2016年 9月 FSSC22000認証取得

2014年 5月 中国に「味堪(広州)餐饮管理有限公司」を設立

2012年 4月 株式会社あじかんアグリファームを設立

2011年 年4回の節分を「巻寿司の日」として記念日登録

2010年 12月 通信販売にて「つくば山崎農園産あじかん焙煎ごぼう茶」を発売
(焙煎ごぼう茶の販売開始)

2005年 5月 中国に合弁会社「愛康食品(青島)有限公司」を設立

2004年 6月27日を「ちらし寿司の日」として記念日登録

2001年 1月 中国に「山東安吉丸食品有限公司」を設立
2月 ISO9001認証取得



【機能性表示食品】
あじかん焙煎ごぼう茶
プレミアムブレンド
ごぼうのおかげ



つくば工場

2000

2010

2021 2022

決算のご報告 [連結]

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2021年3月31日現在	2022年3月31日現在
流動資産	10,755	11,847
固定資産	12,990	12,593
有形固定資産	10,643	10,171
無形固定資産	471	630
投資その他の資産	1,875	1,791
資産合計	23,745	24,440

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2021年3月31日現在	2022年3月31日現在
流動負債	8,945	9,557
固定負債	1,572	1,007
負債合計	10,517	10,565
株主資本	12,929	13,393
その他の包括利益累計額	298	481
純資産合計	13,228	13,874
負債純資産合計	23,745	24,440

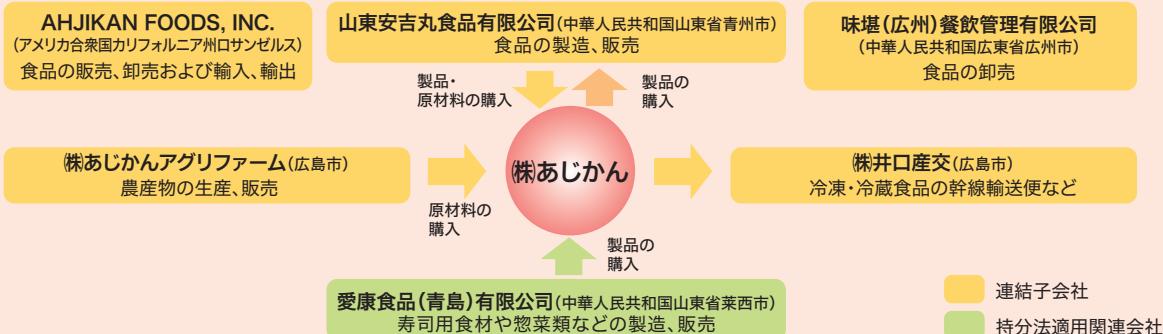
総資産 24,440 百万円 (前連結会計年度末比 694百万円増加↑)

総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ694百万円増加し、24,440百万円となりました。主な増減要因は、流動資産で、受取手形及び売掛金の増加410百万円、原材料及び貯蔵品の増加327百万円、商品及び製品の増加189百万円、固定資産で396百万円減少したためであります。固定資産の減少は、減価償却の進行に伴い、有形固定資産が減少したことに加え、投資その他の資産においてその他に含まれる保険積立金や投資有価証券が減少したためです。

純資産 13,874 百万円 (前連結会計年度末比 646百万円増加↑)

純資産は、前連結会計年度末に比べ646百万円増加し、13,874百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の増加635百万円、為替換算調整勘定の増加204百万円、剰余金の配当による減少114百万円であります。

企業集団の状況



損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2020年4月1日～ 2021年3月31日	2021年4月1日～ 2022年3月31日
売上高	42,593	45,315
売上原価	31,130	34,155
売上総利益	11,462	11,160
販売費及び一般管理費	10,831	10,600
営業利益	631	560
営業外収益	263	412
営業外費用	57	50
経常利益	836	921
特別利益	105	51
特別損失	10	18
税金等調整前当期純利益	931	954
法人税等	331	319
当期純利益	600	635
親会社株主に帰属する当期純利益	600	635

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2020年4月1日～ 2021年3月31日	2021年4月1日～ 2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,002	442
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲238	▲438
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,770	▲78
現金及び現金同等物の増減額	▲2	▲11
現金及び現金同等物の期首残高	1,765	1,763
現金及び現金同等物の期末残高	1,763	1,751

長期ビジョン あじかんV30

■ あじかんV30とは

あじかんの2030年3月期を着地点とした長期ビジョン

■ 基本方針

「需要創造」「利益構造改革」「経営品質向上」により『選ばれる企業』になる

※『選ばれる企業』とは・・・お客さま、取引先・株主・従業員・地域社会と強固な共存共栄の関係を築き、その責任を果たし続ける企業をいう

■ 基本戦略

1. 需要創造型食品メーカーへの挑戦

- ・業務用食品事業における創造的かつ効率的な需要対応の推進
- ・需要創造によるヘルスフード・海外事業の飛躍的な成長
- ・新規事業開発の推進とブランド価値の創出

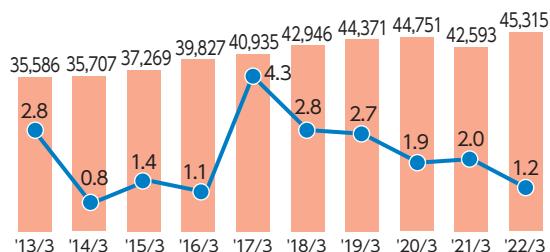
2. 利益構造改革と経営品質の向上

- ・業務用食品事業の利益構造の改善
- ・ライン部門とスタッフ部門の生産性向上
- ・改革を推進できる経営管理組織と人材の開発

■ 定量目標

売上高(2030年3月期)	600億円
営業利益率(2030年3月期)	4.0%以上

[定量目標の推移] ■ 売上高 ● 営業利益率



会社概要

- ▶商号 株式会社あじかん
AHJIKAN CO.,LTD.

- ▶設立 1965年(昭和40年)3月19日(創業 1962年)

- ▶本社 広島市西区商工センター七丁目3番9号

- ▶資本金 1,102百万円

- ▶従業員数 928名(パートタイマーおよび臨時雇用者を除く)

取締役紹介 (2022年6月29日現在)

- 取締役会長……………足利 恵一
- 代表取締役社長執行役員……………足利 直純
- 代表取締役専務執行役員……………豊田 太
- 取締役専務執行役員……………江角 知厚
- 取締役常務執行役員……………玉井 浩
- 取締役(常勤監査等委員)……………樋口 研治
- 社外取締役(監査等委員)……………川平 伴勅
- 社外取締役(監査等委員)……………稲葉 琢也

株主優待品

2022年度(2022年3月31日基準日)の株主優待より、当社の株主優待制度を一部変更いたしました。これまでの株主優待制度では、3月31日基準日の株主さまを対象として、年1回株主優待を実施しておりましたが、今後は、3月31日および9月30日基準日の株主さまを対象として年2回実施することいたします。また、対象となる株主さまの区分に

「継続保有年数」を加え、「半年以上継続保有いただいていること」を条件とすうえ、「半年以上2年未満」と「2年以上」の区分を新たに設けるとともに、保有株式数の区分を「100株以上500株未満」「500株以上2,000株未満」「2,000株以上」に変更しております。

保有株式数	基準日	継続保有年数別(半年以上継続)優待内容			
		半年以上2年未満	贈呈時期	2年以上	贈呈時期
100株以上500株未満	3月末	自社製品1,000円相当	5月下旬	自社製品1,000円相当	5月下旬
	9月末	—	—	自社製品1,000円相当	5月下旬
500株以上2,000株未満	3月末	—	—	自社製品2,000円相当	11月下旬
	9月末	自社製品2,000円相当	11月下旬	自社製品2,000円相当	11月下旬
2,000株以上	3月末	—	—	自社製品1,000円相当	5月下旬
	9月末	自社製品3,000円相当	11月下旬	自社製品3,000円相当	11月下旬

2022年3月31日時点の株主名簿に記載された100株以上500株未満保有かつ半年以上保有、500株以上保有かつ2年以上保有の株主のみなさまに、5月下旬に「自社取扱品の詰め合わせ」をご送付いたしました。ご贈呈品目は、「機能性表示食品 ごぼうのおかげ(7包)」、「ごぼうスティックうま塩味」を送付させていただきました。



株式の状況 (2022年3月31日現在)

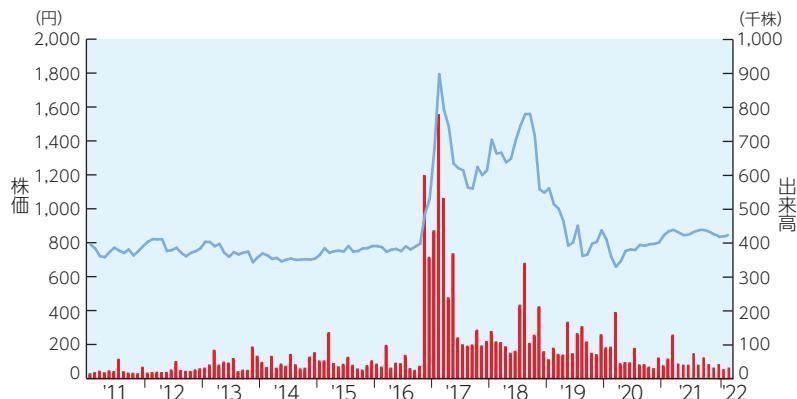
- >発行可能株式総数 …… 16,000,000株
- >発行済株式総数 …… 7,700,000株
- >株主総数 …… 5,432名
- >上場証券取引所 …… 東証第2部
※2022年4月4日より、スタンダード市場
- >証券コード …… 2907
- >単元株式数 …… 100株

■大株主の状況 (2022年3月31日現在)

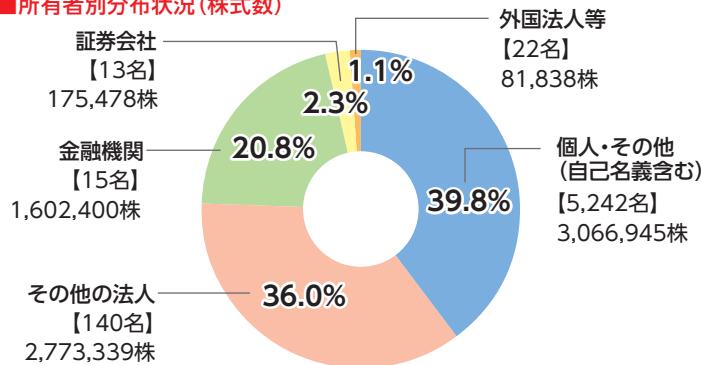
株主名	株式数(株)	持株比率(%)
株式会社足利興産	1,771,100	23.3
あじかん三栄持株会	713,200	9.4
株式会社広島銀行	363,000	4.8
あじかん株式持株会	315,800	4.1
株式会社山口銀行	214,500	2.8
株式会社三菱UFJ銀行	192,500	2.5
明治安田生命保険相互会社	158,000	2.1
広島海苔株式会社	139,500	1.8
共栄火災海上保険株式会社	132,000	1.7
西和興産株式会社	126,000	1.7

(注)持株比率は、自己名義株式を控除して算出しております。

■株価の推移 [— あじかん株価 ■ 出来高]



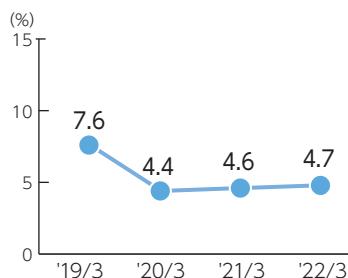
■所有者別分布状況(株式数)



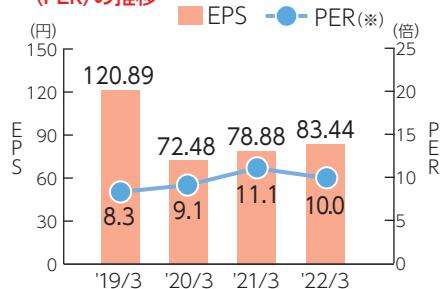
■配当金の推移



■自己資本純利益率 (ROE) の推移



■1株当たり純利益 (EPS) と株価収益率 (PER) の推移



(※)各年度の3月終値にて算出

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日(当期中間配当は未実施)

- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所 スタンダード市場
公告の方法 電子公告
(公告掲載URL) <https://www.ahjikan.co.jp/>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

- 株主さまの住所変更など各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

IRへの取り組み



当社は、IR(投資家向け広報)の小冊子を発行しており、企業広報誌『膳』と併せてお配りしています。企業広報誌『膳』、IR小冊子、決算情報はホームページでご紹介しておりますので、是非、ご覧ください。

あじかん
ホームページ



>>> <https://www.ahjikan.co.jp/>

あじかんグループ企業の紹介

「あじかんグループ」は、鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売、ならびに運輸業を主な事業としています。

国内

▶ 株式会社あじかんアグリファーム(子会社)

所在地: 広島市西区商工センター七丁目3番9号
資本金: 30,000千円(当社100%出資)

主な事業内容 農産物の生産、販売および加工業務など

▶ 株式会社井口産交(子会社)

所在地: 広島市佐伯区石内南一丁目14番1号
資本金: 10,000千円(当社100%出資)

主な事業内容 冷凍・冷蔵食品の幹線輸送便など

海外

▶ 山東安吉丸食品有限公司(子会社)

所在地: 中華人民共和国山東省
青州市玲珑山北路2700号
資本金: 5,354千米ドル(当社100%出資)

主な事業内容 食品の製造、販売



▶ 味堪(広州)餐飲管理有限公司(子会社)

所在地: 中華人民共和国広東省広州市天河区
潭村路348号1004室
資本金: 6,500千人民币(当社100%出資)

主な事業内容 食品の卸売

▶ AHJIKAN FOODS, INC.(子会社)

所在地: アメリカ合衆国カリフォルニア州
ロサンゼルス
資本金: 100万米ドル(当社100%出資)

主な事業内容 食品の販売、卸売および輸入、輸出



▶ 愛康食品(青島)有限公司(持分法適用関連会社)

所在地: 中華人民共和国山東省青島市萊西市深圳北路225号
資本金: 3,436千米ドル(当社50%出資)

主な事業内容 寿司用食材や惣菜類などの製造、販売

UD FONT

見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。